

越前市立王子保小学校

(様式 4-2 : 平成 29 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度
実施結果報告書)

実施結果報告書

1. 学習名称： ～ J R 北陸線王子保駅子ども駅長『ぼっぼやプロジェクト』～					
2. テーマ：駅長の仕事を通して、公共交通の役割と仕事について学ぶと共に、シチズンシップの醸成をはかる					
3. 実施教科：特別活動					
4. 関連単元：6年社会、総合的な学習、生活科					
5. 実施単元数：特別活動					
6. 学年	全学年	7. クラス数	13	8. 児童数	337名
9. 実施内容 <p>今年度も、昨年度委嘱を受けた J R 西日本から J R 北陸線王子保駅子ども駅長の「ぼっぼやプロジェクト」を引き続き行い、学校から 100m ほどの J R 王子保駅（無人）を活性化させるための活動を行った。</p> <p>朝の挨拶運動・駅舎などの清掃活動 今年度は、4月当初から計画的に、朝の挨拶運動、駅舎の清掃などを行うことができた。たてわりの登校班ごとに参加する朝の挨拶運動には、登校の安全を兼ねて地域の見守り隊や保護者が参加することもあった。毎回一緒に挨拶運動に参加している見守り隊の方からは、通学に駅を利用している高校生の挨拶が格段と大きくなったと喜ばれた。</p> <p>清掃活動は、毎週月曜日清掃時間に外掃除の班が連絡橋のくもの巣とりなどを行った。また、毎月の委員会活動では、環境委員会が駅舎や待合室などの清掃を行った。さらに、「王子保駅年末大掃除」をイベントとして、参加ボランティアを保護者や中学年以上で募り、2学期の保護者会の午後に行った。児童は、清掃内容を保護者と一緒に自分たちで考えながら活動した。また、今年も J R 職員にも参加をお願いし、通常業務である安全の確保をしながら、看板やホームなど普段できない場所の清掃を一緒に行うことができた。</p> <p>季節のイベント ○ 初夏のぼっぼや図書館「のりもの読み聞かせ会」 王子保駅を利用して、乗り物好きな低学年や幼児を対象に越前市中央図書館の「出かける図書館」や、かこさとしふるさと絵本館の「未来への行進号」とも協働で、初夏・冬の読み聞かせ会を日曜日に企画した。初夏の会では、5・6</p>					

年生が読み聞かせに、1年生がウエルカムダンスのボランティアに申し込んだ。ダンスは王子保駅に到着した参加者に披露した。

また、読み聞かせボランティアは、図書支援員が発声から指導した。当日は感情を込めた温かな読み聞かせになり、参加者は熱心に聞き入っていた。

残念ながら冬の読み聞かせ会は、企画準備したが直前の大雪で中止になった。

○ 秋のぽっぽやプロジェクト

秋は、子ども駅長自身がJR電車に乗り、鉄道を実際に利用する体験学習を実施した。王子保駅から武生駅まで実際に電車に乗り、武生駅近くのイベント（菊花マラソンの応援や、公会堂でのいわさきちひろ展）に参加した。その後、武生駅に戻り、駅の秘密を知る見学会をJR武生駅のご協力のもと行った。車社会で生活している子どもたちは券売機の裏側や駅長室を見学したり、券売機で自分の切符を買い改札で切符を見せたりすることに、興味深々であった。

10. 学習のながれ：

今年度継続してMM教育の学校支援をいただき、1年を通して、車所有率の高い福井県における数少ない公共交通機関である鉄道の役割・利点、安全やその働きについて学ぶことを目的とした。そのため、各学年が実施している校外学習の中に、鉄道の役割を考えたり、交通安全について考えたりする学習を、計画的に積極的に取り入れることができた。

特に、2年の生活科、6年の社会科見学、さらには併設幼稚園でも、王子保駅からJRを利用し、切符の買い方や電車の乗り降りの体験学習をし、武生駅や福井駅の見学なども行い駅の仕組みについても学習した。実際に王子保駅からJRを利用して校外に出かける活動を通して、切符の買い方や電車の乗り方から、駅や鉄道路線で働く人の仕事に触れることもでき、鉄道の役割について考える学習ができた。

さらに、10月にはPTA親子ふれあい教室として、北陸新幹線のトンネル工事見学会に保護者にも参加を呼びかけた。校区内を通る北陸新幹線の武生トンネル工事見学会には多数の応募があり、北陸新幹線の役割やトンネル工事の仕事について、親子で理解を深めることができた。

2月の大雪では、昼夜を問わず除雪をされたJRの職員の方の仕事に触れ、電車の運行再開に向けた仕事に対して「ありがとうの木」という感謝のメッセージを届けた。メッセージには武生駅の職員さんから、連日の作業で疲れていたが元気ももらったという返信をいただき、それを全校児童に紹介し、さらなる仕事への理解へとつなげた。

継続していく中で、地域の方が挨拶を返してくださったり、JRの方（車掌さんや運転手さん）が電車の中から合図をしてくださったり、さらに2月の大雪のとき「ありがとうの木」への返信のメッセージをくださったりとつながりができてきた。そのことで、子どもたち自身も、この活動が地域活性化の活動だと理解をし始めている。今後も、王子保駅での挨拶運動や駅舎の美化活動という地域貢献活動を通して、児童の地域住民としての意識を育み、地域への愛着心を高めたい。

来年度は、福井県の「地域と進める体験推進事業」の研究指定や、王子保小学校統合百周年記念事業が行われる。これらの活動も「ぽっぽやプロジェクト」を柱として行い、公民館（見守り隊）、自治振興会と連携した交通まちづくり活動を通して、地域に開かれた学校を目指し、ふるさと王子保を愛する気持ちを醸成し、同時に本物の体験の中で仕事への意識や自他の自尊感情や自己有用感を育みたい。